



第16回

山科本願寺南殿

(京都府京都市山科区音羽伊勢宿町)

鳥越一向一揆歴史館友の会／北陸城郭プロジェクト 塩谷忠士

友の会の世話人をしております塩谷です。今回は京都市
やましなほんがんにんんでんの山科本願寺南殿を紹介し、よしざきごぼう吉崎御坊を退去して河内
でぐちごぼう出口（出口御坊、後の長男順如開基の光善寺）に居住して
いた本願寺8世蓮如は、文明10年（1478）から15
年にかけて濠と土塁を巡らせた山科本願寺を造営しました。
延徳元年（1489）蓮如は寺務を五男実如に譲り（本願
寺9世）、山科本願寺寺内町の東に隠居所として南殿を造
営しました。明応5年（1496）蓮如は^{おおさかごぼう}大坂御坊を建立
して大坂に居を移しました。同8年2月20日死を悟って
大坂御坊から山科本願寺南殿に帰参した蓮如は、南殿で3
月25日85歳で没し、山科の地に葬られました。



史跡山科本願寺南殿跡 標柱と案内板

南殿は山科本願寺と同じく周囲に濠と土塁を巡らせた造りで、^{こうしょうじ}光照寺所蔵絵図によると西に第二郭を
伴う内郭を外郭がぐるりと取り囲んでいたと考えられています。天文元年（1532）日蓮宗徒と六角
氏の焼き討ちに遭い南殿は焼亡しますが、同5年内郭付近に泉水山光称寺が建立され、その後継が現在
の光照寺（真宗大谷派）であるとされています。北面して建つ光照寺の裏手には南殿内郭の庭園跡（池
跡と築山）と南東隅の土塁と濠が良好に残っています。南側の道路から南殿幼稚園駐車場に入るとフェ
ンス越しに築山が見え、また駐車場内にある土塁と濠には実際に近づいて見ることができます。

京都市では平成14年度から令和6年度までの間に12回の発掘調査を実施し、最初の平成14年度
調査では内郭の北東隅の土塁と濠を検出したことを踏まえて、2002年12月19日「山科本願寺跡
及び南殿跡」として国史跡に指定されました。南殿跡の指定範囲はその時の発掘調査箇所を含む現在フ
ェンスに囲まれた空地と光照寺裏手に残る庭園跡、土塁、濠となっています。

外郭の西濠推定ラインに接する場所に^{れんによしようにんおさしず}「蓮如上人御指図の井」と称する井戸が残っています。昔（飛
鳥時代）、^{ぎょうき}諸国行脚で^{おとわ}行基が音羽の里へ立ち寄られた折に里の女人に水を求めたところ、女人はお坊さ
んの身なりを見てばかりして水を差し上げなかったので、以降音羽の里では井戸の水が出なくなったと
いう伝承がありました。蓮如が南殿を造るにあたり井戸を掘らせても水が出ず、里人からこの伝承を聞
いた蓮如は、弟子の^{こんこん}龍玄を連れてこの井戸のところまで来て、杖で指図したところを人々が不審に思い
ながらも掘ってみると清水が滾々と湧き出したと伝えています。

参考資料
山科本願寺南殿
跡発掘調査
現地説明会資料
(2002/1/12)

京都市内の埋蔵
文化財
発掘調査速報
No.012, No.040

現地案内板
ほか



南殿内郭南東隅の土塁と濠



蓮如上人御指図の井